



編集・発行 中須をよりよくする会・中須公民館

記事と情報は中須公民館まで

89-0301



1月16日(土) ふるさと夜神楽のつどい

久保神楽 夜に舞う

一月十六日(土)夜、中須伝統芸能伝承館で、『ふるさと夜神楽のつどい』が開催され、久保神楽と岩国市錦町の向峠神楽が夜神楽を上演しました。

中須地区内だけでなく多くの方々が見物に来られ、迫力ある舞を楽しみました。

久保神楽は『大蛇退治』を演じましたが、この神楽は、『古事記』の中の『八俣の大蛇(やまたのおろち)』の物語を神楽化したものです。

『天照大神の弟、須佐之男命(すさのおのみこと)が出雲の国に降り立った時のこと。八俣の大蛇に七人の娘が次々に食べられ、この娘ももうじき食べられてしまおうと泣いている老夫婦と娘に出会います。須佐之男命は一計を案じ、老夫婦に毒酒を用意させ、激しい戦いの末、見事に大蛇を退治してしまいます。その時に、大蛇の尾から出てきた剣が、『あめのむらくもの剣』(後の草薙の剣)で、三種の神器の一つといわれています。』

須佐之男命が毒酒を飲んで暴れる大蛇に剣を刺すと、口から激しい炎を吐きながらもがき苦しむ、その首を取って天高く掲げると、大きな拍手が会場に響きました。

中須の伝統芸能を代表する『久保神楽』。伝統を守り続けたいという想いと、そして、このまちを愛する多くの人々に支えられながら、これから先もずっと、輝き続けていくことでしょう。



『岩には一本の長い筋が…縄の跡か…?』



『こも敷き岩』

なかず再発見!

第20回
『柏山』こも敷き岩の巻

今回の再発見は、『こも敷き岩』です。公民館から県道三瀬川下松線を南へしばらく進むと、道路沿いにたくさんの『かざぐるま』たちが、まるで私たちを迎えてくれているかのように風に吹かれクルクルと回っている姿を目にすることが出来ます。(柏山の田中さんが作っておられます。)そこから少し進むと、東へ伸びる農道若山線があり、さらに奥へ二〇〇メートル程入ったところに『こも敷き岩』がありました。

この辺りは、『若山』と呼ばれ、以前は田んぼが一面に広がっていたといえます。

この岩は、高さはありませんが、幅が約二メートル×四メートル、平らでも大きな姿をしています。また、岩の表面には、文字などは刻まれていないものの、一本の長い縄の跡のようなものが残っています。

この岩については、こんな話がこの地に語り継がれています。

江戸初期の寛文四年(一六六四年)四月十六日の夜のこと。八幡宮が火事になり、なにもかも燃えてしまうことがありました。この時、神火(神聖な火)が、遠く離れた若山の岩に留まり、きらきらとまぶしいほどの光を放ったといえます。当時の人々は、『八幡様が災いを避けてこの岩に駐臨なさったのだ』と小祠(ほこら)をたて、『こも』を敷いて三年間鎮祭をしたといえます。

今となつては、事実がどうであったかはつきりとは分かりませんが、この岩に残る跡は、鎮祭を行った時のものかもしれません。

とても静かなこの場所で、そっと目を閉じると、当時の光景が、空を超え、時を飛び超え、ふっと私の頭の中に描かれ、まるで自分がその場に居合せているかのような、なんともいえない不思議な感覚に包まれます。この場所が持つ不思議なパワーを全身に浴びて、心地よく吹く風の中に春の足音を肌で感じながら静かなこの場所を後にしました。

今回の取材にあたり、現地での案内やいろいろと教えていただいた、桶谷敏さん、手嶋諭さん、どうもありがとうございました。

(写真・文 公民館主事 福田)

2・3月の行事予定

日時	内容	場所	備考
2月14日(日)	菅野湖畔 10マイルレース	菅野湖周辺	11時スタート
2月23日(火) 13:20~14:00	移動図書館 やまびこ号	中須支所	
3月2日(火)	一輪草の会食事会	光市(予定)	社会福祉協議会
3月7日(日)	消防団消防訓練	柏山	消防団
3月10日(水) 13:20~14:00	移動図書館 やまびこ号	中須支所	
3月11日(木)	中学校卒業式	中学校	

中須の人口 2月1日現在
前月比

男	417人	(±0人)
女	493人	(±0人)
総人口	910人	(±0人)
世帯数	428世帯	(+2世帯)
高齢化率	44.8%	

おしらせ



昨年の10マイルレース(平成21年2月8日開催)

菅野湖畔

10マイルレース

二月十四日(日)、菅野湖畔10マイルレースが実行委員会の主催で開催されます。十四回目の開催となりますが、今年も、各地から約六十名のランナーたちが集まり、なかずのまちを駆け抜けます。

スタートは十一時

みんなで応援しましょう!

